

A.2 追加性に関する情報

投資回収年

投資回収年数	53.2	年
--------	------	---

A.3 排出削減量の算定方法

A.3.1 排出削減量

$$ER = EM_{BL} - EM_{PJ} \quad (\text{式1})$$

記号	定義	単位	数値
ER	排出削減量	tCO2/年	18
EM_{BL}	ベースライン排出量	tCO2/年	35.6
EM_{PJ}	プロジェクト実施後排出量	tCO2/年	16.9

A.3.2 排出削減量の算定で考慮する付随的な排出活動

(1) ベースラインの付随的な排出活動

(考え方) ベースラインにおいては付随的な排出活動はない

排出活動	排出量(tCO2/年)	モニタリング・算定方法
		<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う
		<input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行わない
合計	0.0	

(2) プロジェクト実施後の付随的な排出活動

(考え方)

本事業で導入したヒートポンプは、冷媒としてR410Aを用いており、冷媒の漏洩による付随的な排出活動が生じる。通常冷媒が漏洩している場合、メンテナンス時に不足分の冷媒を充填することから、メンテナンス時に追加的に充填される冷媒を漏洩量としてモニタリングを行うものとする。

排出活動	排出量 (tCO2/年)	影響度 (%)	モニタリング・算定方法
冷媒 (R410A) の漏洩	0.8	4.4	<input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
合計	0.8	4.4	

A.3.3 プロジェクト実施後排出量

(1) 主要排出活動

(考え方) プロジェクト実施後のヒートポンプ生成熱量から算定する。

$$EM_{PJ,m} = Q_{PJ,heat} \times 100 \div \varepsilon_{PJ} \times CEF_{electricity,t} \quad (式7)$$

記号	定義	単位	想定値
EM_{PJ}	プロジェクト実施後の主要排出量	tCO2/年	16.1
$Q_{PJ,heat}$	プロジェクト実施後のヒートポンプによる生成熱量	GJ/年	435.9
ε_{PJ}	プロジェクト実施後のヒートポンプのエネルギー消費効率	%	430
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO2排出係数	kg-CO2/kWh	0.57

(2) 付随的な排出活動

$$LA_{PJ} = FA_{PJ} \times LR_{PJ} \times GWP_{PJ} \quad (式8、式9)$$

記号	定義	単位	想定値
LA_{PJ}	プロジェクト実施後の空調設備に充填されている冷媒の漏洩量	(tCO2/年)	0.8
FA_{PJ}	プロジェクト実施後のヒートポンプに当初充填されている冷媒の量	(kg)	7.8
LR_{PJ}	プロジェクト実施後のヒートポンプに充填されている冷媒の漏洩率	(%/年)	5
GWP_{PJ}	冷媒の地球温暖化係数	-	2,090

A. 3.4 ベースライン排出量の考え方

(1) ベースライン排出量の考え方

本プロジェクトにおけるベースライン排出量は、プロジェクト実施後のヒートポンプによる精製熱量を、プロジェクト実施後のヒートポンプではなく、ベースラインの温水ヒーターから得る場合に想定されるCO2排出量とする。

(2) ベースライン活動量（発電電力量、蒸気の供給量又は製品の生産量等）の算定式

$$Q_{BL,heat} = Q_{PJ,heat} \quad (式13)$$

記号	定義	単位	想定値
$Q_{BL,heat}$	ベースラインの熱源設備による生成熱量	GJ/年	435.9
$Q_{PJ,heat}$	プロジェクト実施後のヒートポンプによる生成熱量	GJ/年	435.9

A. 3.5 ベースライン排出量

(1) 主要排出活動

$$EM_{BL,m} = Q_{BL,heat} \times 100 / \varepsilon_{BL} \times CEF_{BL,fuel} \quad (式17)$$

記号	定義	単位	想定値
EM_{BL}	ベースラインの主要排出量	tCO2/年	35.6
$Q_{BL,heat}$	ベースラインの熱源設備による生成熱量	GJ/年	435.9
ε_{BL}	ベースラインの熱源設備のエネルギー消費効率	%	84.1
$CEF_{BL,fuel}$	ベースラインの熱源設備で使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	0.0686

(2) 付随的な排出活動

(式)

記号	定義	単位	想定値

A.4.1 モニタリング計画

(1) 活動量（燃料消費量、生成熱量、生産量等）

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類	概要	頻度	想定値	根拠	
$Q_{PJ\ heat}$	プロジェクト実施後のヒートポンプによる生成熱量	GJ/年	C	カロリーメーターによる計測	月	435.9	想定される年間運転時間から算出	
LA_{PJ}	プロジェクト実施後の空調設備に充填されている冷媒の漏洩量	tCO2/年	B	冷媒の充填量を検定済み計量器(重量)で計測し、メンテナンス記録に添付する。	メンテナンス時	0.8	方法論に記載の冷媒漏洩量を用いて計算	

(2) 係数（単位発熱量、排出係数、エネルギー消費効率、物性値等）

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類	概要	頻度	想定値	根拠	
ϵ_{PJ}	プロジェクト実施後のヒートポンプのエネルギー消費効率	%	II	カタログ値を使用する	プロジェクト開始時	430.0	カタログ値	
ϵ_{BL}	ベースラインの熱源設備のエネルギー消費効率	%	II	カタログ値を使用する	プロジェクト開始時	84.1	カタログ値	高位発熱量基準
$CEF_{electricity, t}$	電力のCO2排出係数	kg-CO2/kWh	III	デフォルト値を使用する	年	0.570	デフォルト値	全電源
$CEF_{BL, fuel}$	ベースラインの空調設備で使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	III	デフォルト値を使用する	年	0.0686	デフォルト値	

A.4.2 計量器を用いたモニタリング（分類B）に関する説明

（1）計量器の概要

①特定計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント	検定の有効期限

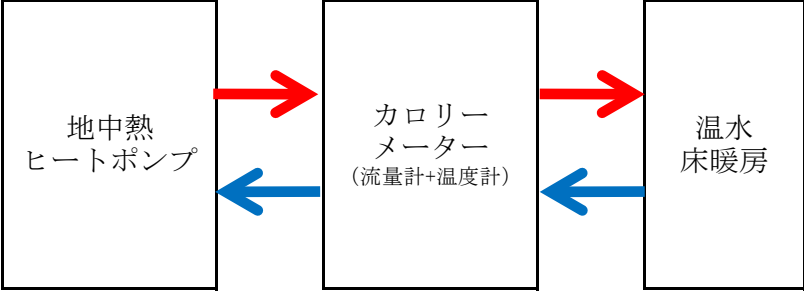
②特定計量器以外の計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント	計量器の校正方法の説明

（2）モニタリングポイント

--

A. 4.3 概算等に基づくモニタリング方法（分類C）に関する説明

モニタリング項目	$Q_{PJ\ heat}$
<p>(推定・概算方法)</p> <p>プロジェクト実施後の対象設備による生成熱量 (GJ/年)</p> <p>=生成熱量値×保守的な値にするための修正値 (90.25%)</p> <p>(流量計 精度幅5%、温度計 精度幅5%、$0.95 \times 0.95 \doteq 90.25\%$)</p> <p>(モニタリングポイント)</p> 	

A. 4.4 係数(単位発熱量、排出係数、効率等)の実測方法に関する説明

モニタリング項目	